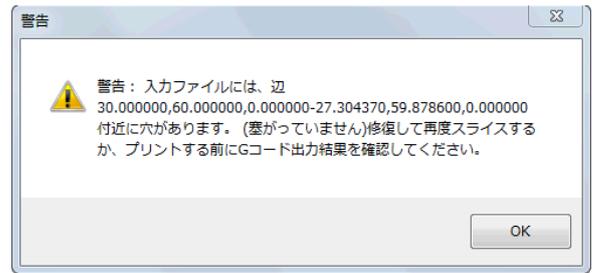


スライサーで STL を読み込んだ場合に、右のように「穴が開いている」というエラーが出る場合があります。

また、エラーが出なくても実際の造形物が STL の形状と異なってしまう場合があります。

こうした場合、STL データの不具合が考えられます。



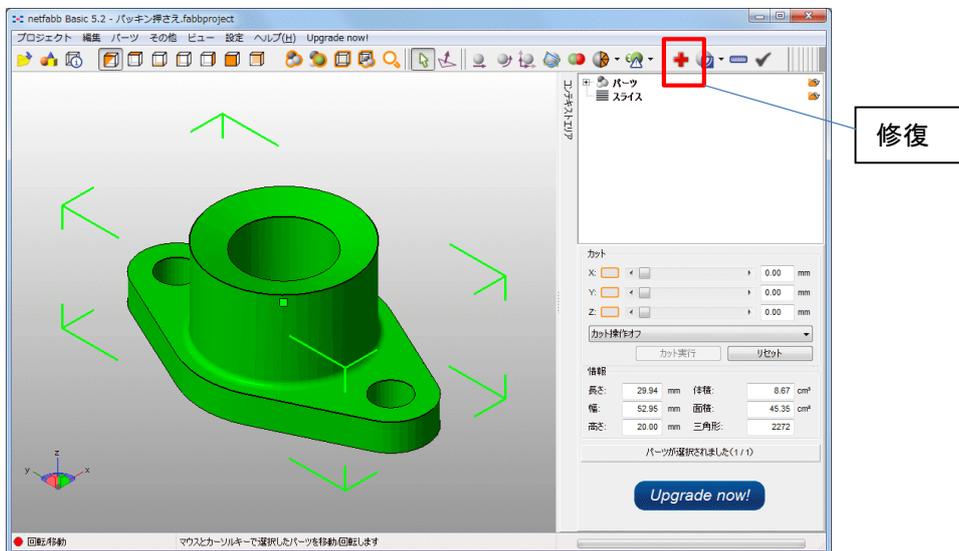
この場合「netfabb」というフリーウェアで修正できることがあります。以下よりダウンロード、インストールして下さい。(Ver5.2 から日本語が使用できます)

<http://www.netfabb.com/downloadcenter.php?basic=1>

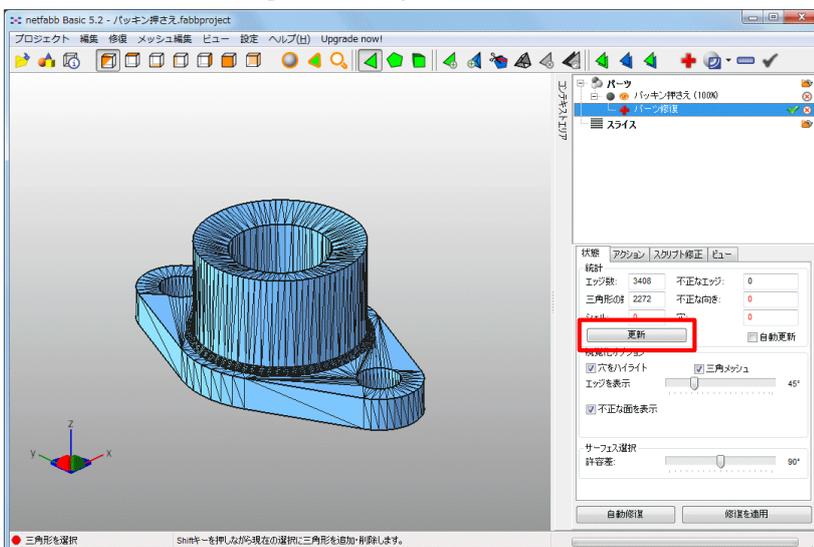
ポリゴン数の削減や STL ファイルのマージは netfabb の有償版でないといけません。フリーウェアの MeshLab では可能です。

手順は以下の通りです。

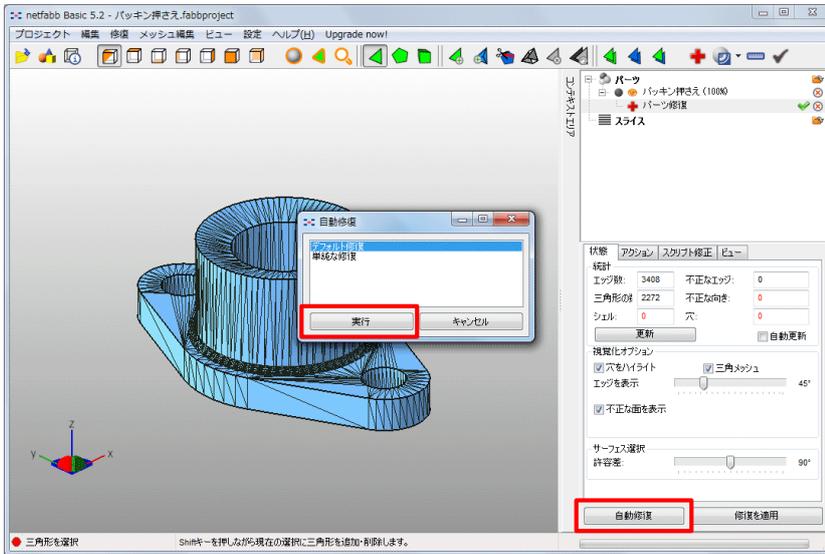
1. STL を読み込みます (ドラッグアンドドロップで読み込みます)。立体モデルが表示されます。
2. モデルを選ぶと直方体の枠が表示されます。右上の「修復」の赤十字を押して下さい。



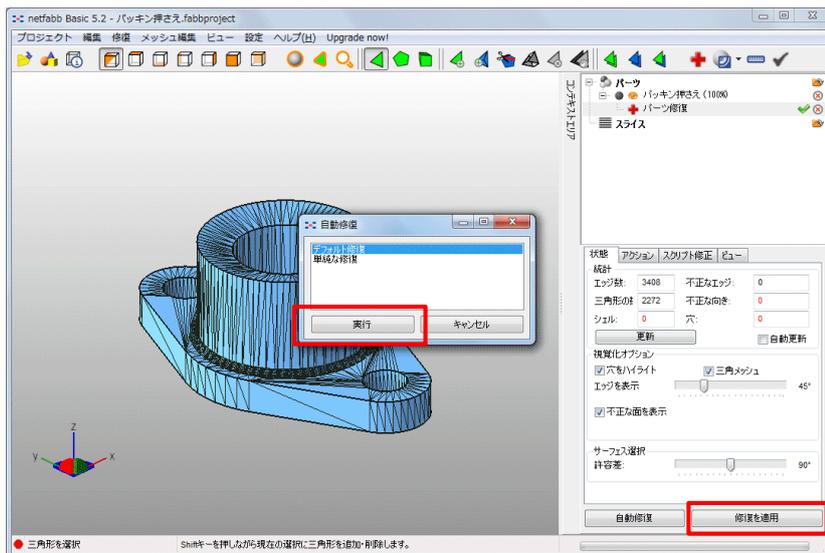
3. 右側タブ中段の「更新」を押します。



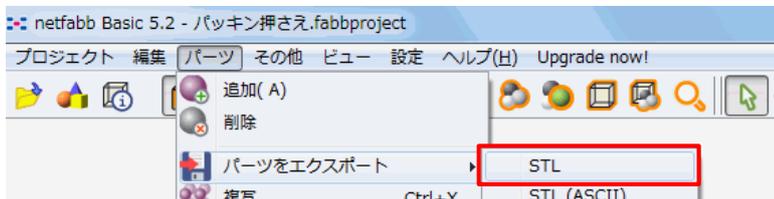
4. 右側タブ左下の「自動修復」を押します。
5. 「デフォルト修復」を選択したまま、「実行」を押します。



6. 右下の「修復の適用」を押します。
7. 古いパーツを除去するか訊かれるので、「元のパーツを削除しますか？」(削除する)を押します。

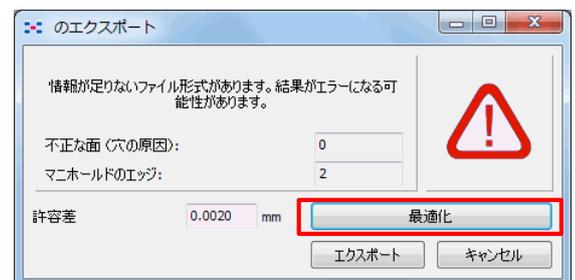


8. 最上段の「パーツ」→「パーツをエクスポート」→「STL」で保存します。



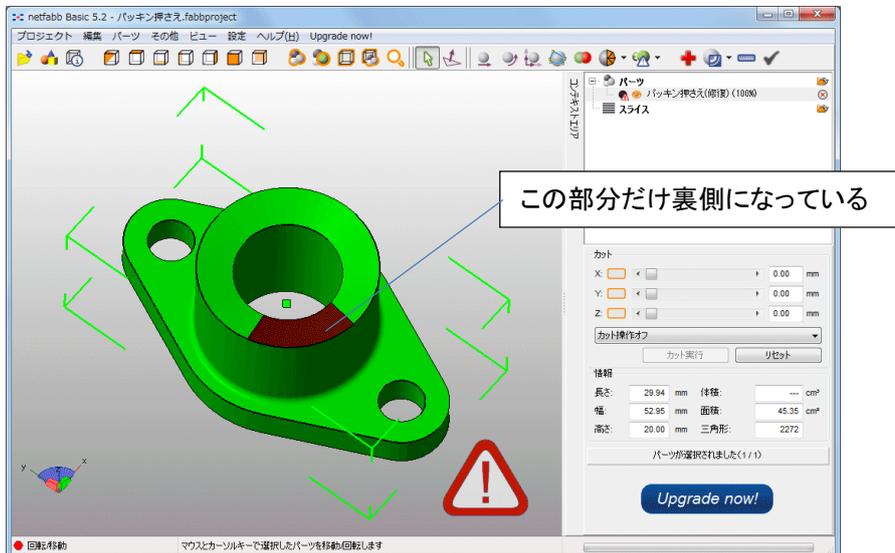
この際にもエラーが確認されます。右のような[!]の警告が出た場合、[最適化]ボタンを押してから[エクスポート]を選んで下さい。自動的に最適化されます。

これで、修正したファイルが保存されます。

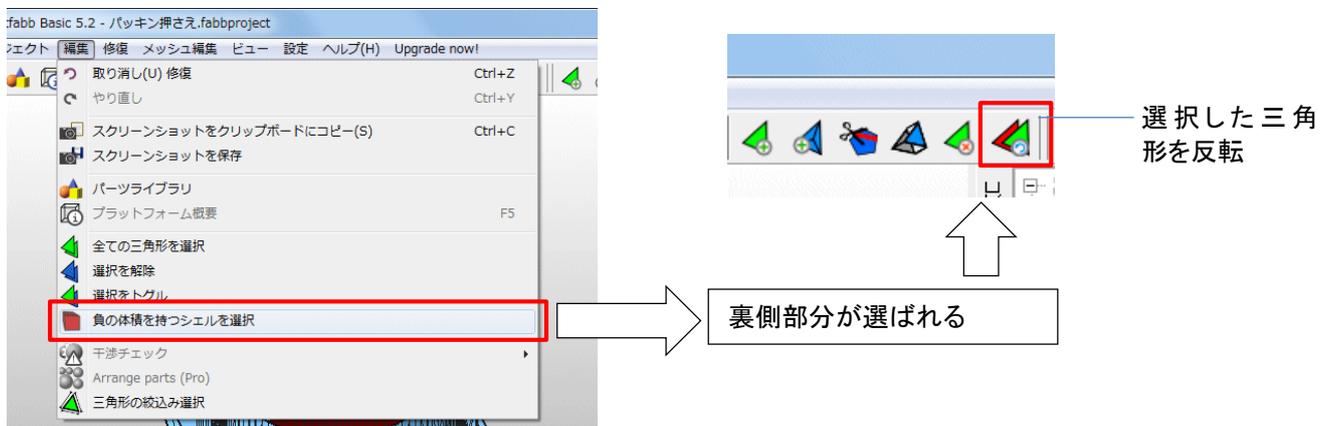


■面が反転している部分がある場合

STL ファイルはソリッド(塊データ)ではなく、面で構成されています。面には表裏があり、通常表側が見えています。ただ、変換されたファイルによっては部分的に裏側が見えてしまっている場合があります。裏側になっている部分は違う色で表示されます。



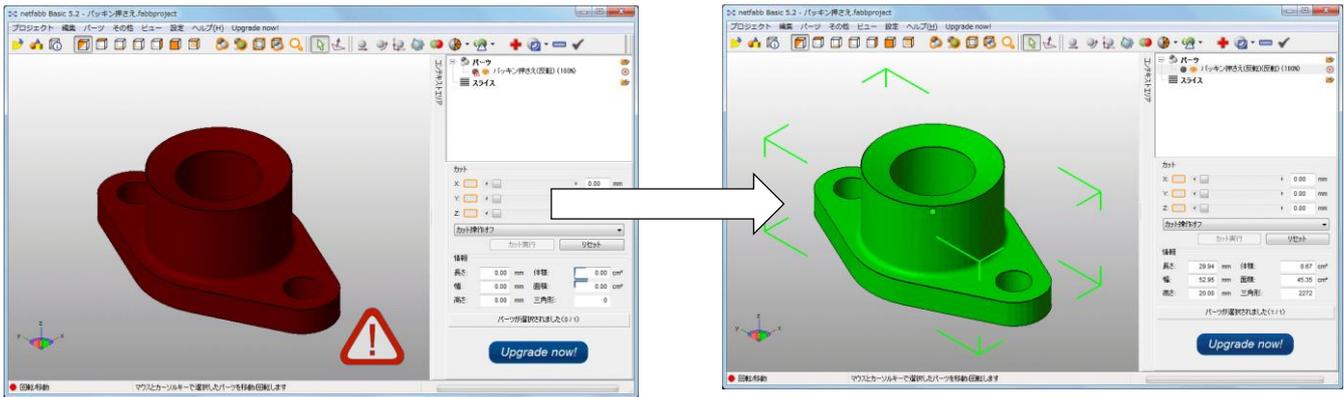
この裏側部分は先の自動修復でも直りますが、自動修復後にも裏側部分が残っている場合があります。その場合、「修復を適用」を行う前に、[編集]→[負の体積を持つシェルを選択]を選んで下さい。裏側部分が選択されますので、「選択した三角形を反転」ボタンを選んで下さい。



その部分が反転しますので、ここで「修復の適用」を選びます。全体が表面になっていることを確認して下さい。あとは通常の修復と同じく保存します。

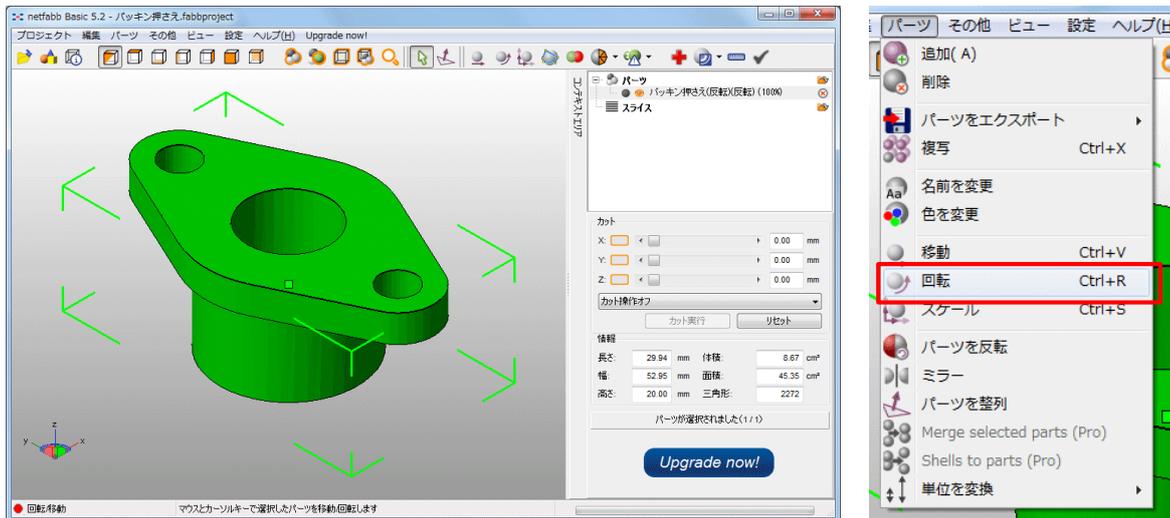
■面が全て反転している場合

修復結果によっては、全ての面が反転している場合があります。その場合は、全体が茶色になっています。この場合は、全体を反転させます。モデルを選んで[パーツ]→[パーツを反転]を選んで下さい。

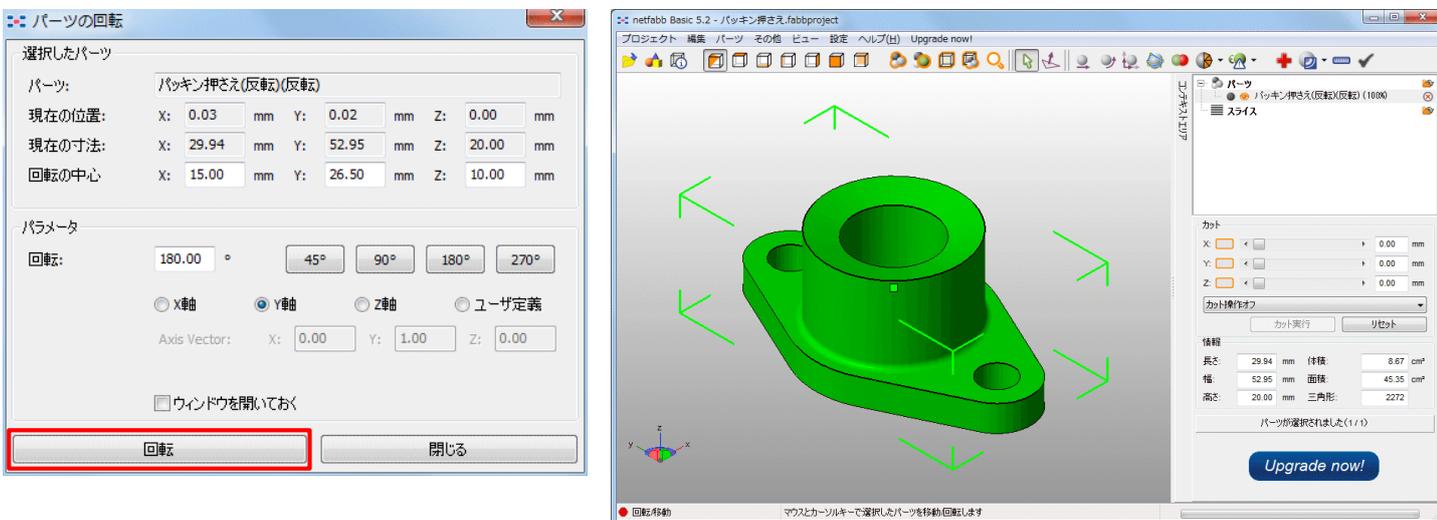


■上下の反転など

スライサーでは上下反転など、縦方向の回転ができません。縦方向の回転はモデルを選んで、[パーツ]→[回転]を選んで下さい。

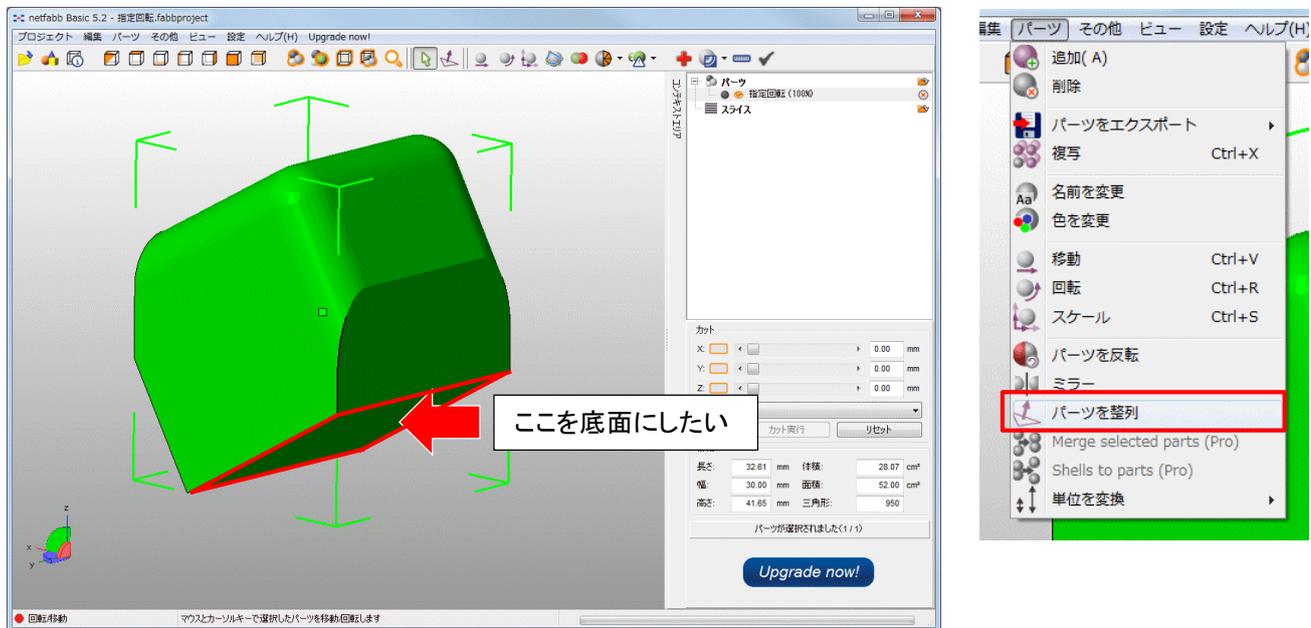


上下反転の場合、軸は X 軸か Y 軸、角度は 180° にして[回転]を選びます。



■特定面が水平になるように回転

縦方向の回転を行いたくても、角度が分からない場合があります。その場合、「パーツを整列」コマンドで、特定面を水平に回転できます。



[パーツ]→[パーツを整列]を選んで、底面にしたい面上でダブルクリックして下さい。

